



# 親にアレルギー疾患があると、 子どもはアレルギー疾患に なりやすい？

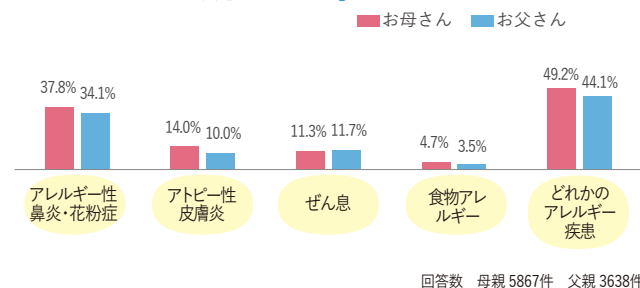


乳幼児期にアトピー性皮膚炎などのアレルギーがある子どもは、成長するにつれてぜん息やアレルギー性鼻炎など、いろいろなアレルギー症状が出てくることが多く、その様子は、行進に例えて「アレルギーマーチ」と呼ばれています。「母親や父親にアレルギーがあると子どもに遺伝するのか?」と疑問を持つ人が多いかもしれません。今回は、千葉ユニットセンターでエコチル調査に参加していただいたみなさんのデータから、母親、父親のアレルギーと子どものアトピー性皮膚炎の割合について調べてみました。

## お母さんとお父さんのアレルギー



### アレルギー疾患があるお母さん、お父さんの割合

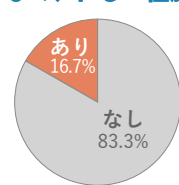


ぜん息、アレルギー性鼻炎（花粉症）、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーのうち、どれかのアレルギー疾患になったことがあるお母さんの割合は49.2%、お父さんの割合は44.1%でした。これは、エコチル調査だより第13号で紹介された全国のデータとほぼ同じくらいの割合です。

## お子さんのアトピー性皮膚炎



### 子どものアトピー性皮膚炎



ここでは、「2か月以上、良くなったり悪くなったりするかゆみを伴った皮疹」が、身体（ひじの内側などの特定の場所）にできた場合を「アトピー性皮膚炎」と呼ぶことにします。

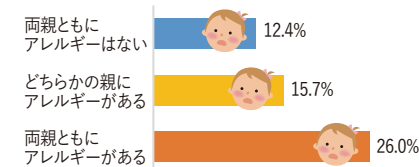
1歳までにアトピー性皮膚炎になったことがあるお子さんの割合は、16.7%でした。

※アレルギーについては、本誌5Pの特集「アレルギーと腸内フローラ」もご参照ください

## お母さん・お父さんのアレルギーとお子さんのアトピー性皮膚炎



### お母さん、お父さんのアレルギーとアトピー性皮膚炎のお子さんの割合



アレルギー性鼻炎/花粉症、アトピー性皮膚炎、ぜん息、食物アレルギーのどれかのアレルギー疾患になったことがある場合に「アレルギーがある」としています

両親とも回答があった3346件について集計

お母さんとお父さんのアレルギー有無別に、1歳までにアトピー性皮膚炎になったことがあるお子さんの割合を調べました。両親ともにアレルギーがないグループでは、アトピー性皮膚炎のお子さんの割合は12.4%でした。お母さんかお父さんのどちらかにアレルギーがあるグループでは、アトピー性皮膚炎のお子さんの割合が15.7%とやや多くなり、両親ともにアレルギーがあるグループはアトピー性皮膚炎のお子さんの割合が26.0%とさらに多くなっていました。

## 疾患別に見たお母さん・お父さんのアレルギーとお子さんのアトピー性皮膚炎

### お母さん・お父さんがなったことがある疾患とアトピー性皮膚炎のお子さんの割合



それぞれ、ほかのアレルギー疾患もあるケースが含まれています

両親とも回答があった3346件について集計

親（どちらかまたは両方）がアトピー性皮膚炎になったことがある場合、アトピー性皮膚炎のお子さんは26.5%で、ほかのアレルギー疾患がある場合（19.6～22.6%）よりも、アトピー性皮膚炎のお子さんの割合が多くなっていました。



このように、親にアレルギー、特にアトピー性皮膚炎があると子どものアトピー性皮膚炎の割合も多いようです。しかし、お母さん・お父さんのどちらもアレルギー疾患になったことがないグループでもアトピー性皮膚炎のような湿疹ができていたお子さんがいました。症状だけでははっきりしたことは言えませんが、体質の遺伝だけではなく他の要因が関係しているかもしれません。

ほとんどの疾患は、遺伝以外にも多くの要因が関係して発症します。エコチル調査では、10万人の子どもたちとお母さん・お父さんからいただいたたくさんの情報を分析して、子どもの健康や発達に關係するさまざまな要因を調べる研究を進めています。これからも、お子さんの成長とともにたくさんのことが明らかになってくるはずです。

これからも質問票のご提出に、ご協力お願いいたします！

